

水上勉没後20年特別企画

郷土の偉人 水上勉を知る旅路



感動させてきたのか

これほど多くの人を

いかにして

どのような人生を歩み

彼の人は

写真：水谷内健次 長野での講演会サイン会場にて

一年間を通して学ぶ ふるさと福井の作家 水上勉

【上半期スケジュール（4月～9月）】

裏面に各講座の詳細を記載しております。

- 【特別回】4月13日（土）13：30～ 福井県立図書館 「水上勉とふるさと福井」 講師：下森弘之
【第一回】5月18日（土）13：30～ 一滴文庫茅葺館 「おかえりなさい、水上先生。」 講師：渡辺力
【第二回】7月13日（土）13：30～ 一滴文庫茅葺館 「『海の牙』が担った社会的役割」 講師：下森弘之
【第三回】9月7日（土）13：30～ 一滴文庫茅葺館 「水上勉先生と父・永江秀雄の交流」 講師：永江寿夫

*敬称略

*全八回の関連イベントのうち、六回以上参加された方には、修了証書と記念品を授与させていただきます。

若州一滴文庫

〒919-2116 福井県大飯郡おおい町岡田 33-2-1 特定非営利活動法人一滴の里
TEL：0770-77-2445 FAX：0770-77-2366 HP：<http://www.itteki.jp/>
休館日：火曜日（祝日の場合は開館、翌日休館） MAIL：itteki@kore.mitene.or.jp



一滴文庫 HP

各講座内容紹介

定員
40名

特別回（その1） 直木賞作家 水上勉とふるさと福井【共催：福井県ふるさと文学館】

水上勉が故郷である若狭に、私財を投じて創設した若州一滴文庫。水上にとっての故郷とは、どのようなものであったのだろうかという疑問を、水上が手掛けた一滴文庫を中心として考えてみたい。また、そこに関わる同郷の人である渡辺淳との出会いと、彼と共に過ごした日々から、水上勉の人物像にも言及する。

会場：福井県立図書館研修室 ☎ふるさと文学館 0776-33-8866 講師：一滴文庫学芸員 下森弘之

第一回 おかえりなさい、水上先生。 ～水上勉・「帰郷」の日々～

少年時代に故郷・岡田を離れた水上勉だが、その後、満州から帰国後の結核療養の時期、戦時中の高野分教場での代用教員時代、そして晩年の若州一滴文庫の開設に至るまで、人生の節目において、故郷に長期滞在したことがあった。それぞれの時期の「帰郷」の日々の様子や意味について、関連作品を紹介しながら解説する。

講師：若狭図書学習センター主任 渡辺力

第二回 直木賞候補『海の牙』が担った社会的役割 ～時代の変革を文学から～

今から半世紀以上前、熊本県の水俣市で奇妙な病例が発表された。その報道をNHKのテレビ放送で見ていた水上勉は、その映像にある種の恐怖と興味を覚えた。水上のこの感情に端を発した取材旅行を経て、直木賞の候補にまであがった作品『海の牙』が出来上がった。ここから、この作品の持つ意義と水上勉が社会に問おうとした時代のゆがみについて、解説していきたい。

講師：一滴文庫学芸員 下森弘之

第三回 水上勉先生と父・永江秀雄の交流

先生と父との出会いは、令弟の祐さまとのご縁からで、成城のお家で三泊四日も清遊させていただいたと記しています。歴史史料のご提供や若狭各所のご案内もさせていただき、歴史小説『城』の帯には、父を畏友と書いていただきました。母も一緒に、成城邸へご歓待いただいております。我が家にも来られています。ありがたいご縁の展開について、お話をさせていただきます。

講師：若狭町歴史文化館館長 永江寿夫

10月
予定

特別回（その2） 水上勉文学ができるまで ～『金閣炎上』を例に～【帰雁忌特別講演】

水上勉没後20年の2024年は、『金閣炎上』刊行45年にあたる年でもあります。長い構想と調査を経て発表されたこの作品は、実際の事件をもとにしながらもノンフィクションとフィクションの間に成立した、今もなお読みつがれる魅力的な作品です。水上勉が残した執筆資料を改めて調査し、作品とつきあわせて読みなおすことで、作品と水上勉文学の特色に迫ります。

講師：武蔵野大学文学部教授 掛野剛史

1月
予定

第四回 『くるま椅子の歌』を読む ～水上勉のみた日本の社会構造～

日本が高度経済成長に差し掛かった1950年代、社会の歪みは至るところに散見されていた。その一端に触れる経験をした水上は、文筆という自らの行動によってその社会の影の部分の部分を世の中に引き出しつまびらかにすることを命題と考えていたのではないだろうか。当時、水上が社会に問いかけた思いと、それがどのように人々に影響を与えたのかについて、私見を述べたい。

講師：一滴文庫学芸員 下森弘之

3月
予定

第五回 「京都宇治川の流れ ～『越前竹人形』と『源氏物語』・宇治十帖～

水上文学の代表作の一つ『越前竹人形』では、ヒロイン・玉枝が渡し舟で宇治川を渡るシーンがクライマックスとなっており、『源氏物語』・宇治十帖においても作品終盤、ヒロイン・浮舟が宇治川へと投身を図る重要なシーンがある。『源氏物語』を愛した文豪・谷崎潤一郎が『越前竹人形』を激賞した文章などもからめ、両作品を比較・解説する。

講師：若狭図書学習センター主任 渡辺力

11月
予定

特別上映会「土を喰らう十二月」【若州一滴文庫くるま椅子劇場】

2024年11月 くるま椅子劇場にて特別上映 入場無料
水上勉『土を喰らう日々』原案作品